

第8次鹿沼市総合計画 2022~2031

笑顔あふれるやさしいまち



～「持続可能なまち」を市民の皆さんと協働で～

鹿沼市は、奥深い山々や数々の清流といった豊かな自然環境を有し、旧石器時代から始まる長い歴史の中で、伝統と革新が共存する文化や1次産業、2次産業、3次産業のバランスが取れた産業などが形成されてきました。さらに首都東京から100km圏という地理的優位性もあり、ポテンシャルに溢れたまちです。

本市を取り巻く現状に目を向けると、歯止めがかからない人口減少や超高齢化、激甚化・頻発化の一途をたどる自然災害など、厳しい社会経済情勢となっています。加えて、新型コロナウイルス感染症が変異を繰り返すことにより影響の長期化が懸念されるなど、今後も、ますます厳しさを増すと考えられます。

第8次鹿沼市総合計画では、このような先の見えない混迷の時代にあっても、市民の皆さんが幸せを感じられる「笑顔あふれるやさしいまち」をつくるため、「すこやか(子育て・教育)」「にこやか(健康・福祉)」「にぎやか(産業・文化)」「きよらか(自然環境)」「しなやか(都市基盤・危機管理)」「なごやかさ(市民協働)」「たくましさ(行政経営)」の7つの政策の方向性を定めました。

社会課題が複雑化・多様化している今、これらの政策を行政だけで推進することは困難であり、市民の皆さんや市内の企業、NPOなどの各種団体も含めた多様な主体が「共感」し、共に課題解決に向け進んでいくことが求められています。こうした互いを思いやり支え合う心で協働・共創の取組を広げ、持続可能でやさしいまちの実現に向け、市民の皆さんとともに全力で取り組んでまいります。

計画実現に向けては、国・県の御支援、近隣自治体や友好都市の皆さんとの連携もたいへん重要です。

市民の皆さん、そして、関係するすべての方々のご理解・ご協力をお願いいたします。

鹿沼市長 佐藤 信

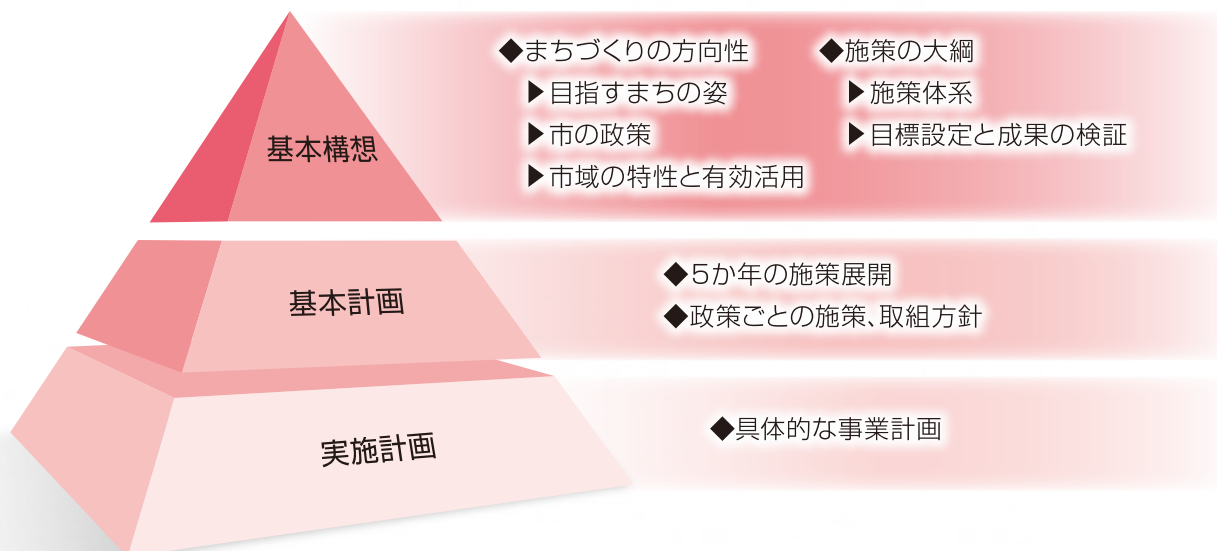


総合計画とは？

これからの鹿沼市の方向性を描いた、「まちづくりの指針」となる最も重要な計画です。

総合計画は、鹿沼市の今後10年間程度の将来の姿を描く「基本構想」と、5年間の施策をまとめた「基本計画」、さらに具体的な毎年度の事業計画である「実施計画」によって構成されています。

基本計画の計画期間は、令和4(2022)年度～令和8(2026)年度までとしています。





目指すまちの姿

本市は、これまでも自然豊かでやさしいまちづくりをみんなの協働で進めてきました。

本計画の策定に当たり実施した、中高生や市民を対象としたアンケートでも、多くの共感と認知を確認することができました。

こうした背景から、市民と行政が共創することで、これまで進めてきた取組みをさらに前へと進めていきます。



花と緑と清流のまち

「花と緑と清流のまち」は、“豊かな自然環境”、“良質な農林産物”など、鹿沼市の魅力を表しています。



“豊かな自然環境”は、豊かな山林や、市内に源流を持つ幾つもの清流などの豊かな自然環境を有する一方、中心部以東は居住環境が整備され、都市と田舎の調和がとれていることを表しています。



“良質な農林産物”は、いちごやニラ、トマトなどの園芸作物に強みを持つほか、かめま和牛などの畜産、米麦、さつきを始めとした緑花木など、幅広い品目が作られていることを表しています。



笑顔あふれるやさしいまち

「笑顔あふれるやさしいまち」は、これまで進めてきた市民協働のまちづくりをさらに進める形で市民と行政が共創し、多様性にあふれ、活気あるまちづくりを進めている様子を表しています。



「笑顔あふれる」は、市民一人ひとりが活躍し、地域に活力が満ちているという状態を表しています。さらに、多世代・多文化の共生により、多様性があり、誰もがいきいきと暮らすことができるような地域社会の実現を目指すという想いが込められています。



「やさしい」は、平和な心で、人や自然などへのやさしさに溢れ、市民が互いに支え合いながら生活を送ることを表しています。地域コミュニティ、企業、行政などあらゆる主体が連携し、協働することでまちづくりを進めていくという想いが込められています。



政策の方向性 —市民の皆さんと共に取り組むまちづくり—

「花と緑と清流のまち 笑顔あふれるやさしいまち」の実現に向け、政策の方向性を以下のとおりとしました。



「政策1 すこやか」「政策2 にこやか」「政策3 にぎやか」「政策4 きよらか」「政策5 しなやか」の5つの政策を推し進めるためには、市民同士の支え合い、市民と行政の協働、そしてそうした取組を支える安定した行財政運営が不可欠であることから、「政策6 なごやかさ」と「政策7 たくましさ」は、ほかの5つの政策を達成するための基礎という位置付けになります。

地域課題の複雑化に伴い、特定の領域にとどまらない横断的な取組が必要とされており、それぞれの政策が相互に影響し合いながら、目指すまちの姿の実現を目指します。



政策 1 子育て・教育(すこやか) ～次代の担い手を育むまちづくり～

次代の担い手である子どもを安心して産み・育てられる環境づくりや、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を適切に担い、社会全体で子どもを見守り育てる教育の実現に取り組めます。

政策 1 すこやか ～次代の担い手を育むまちづくり～

- 1 希望が叶い、安心して出産・子育てできる環境づくり
- 2 すこやかな成長を実現する保育サービスの充実
- 3 良好な家庭環境の構築
- 4 未来を拓く学校教育の推進
- 5 次代につなぐ教育環境の充実
- 6 地域とともに高める学びの推進
- 7 スポーツでつくる健康都市の推進

主な取り組み

- 子育て家庭への経済的な支援
- 公立保育園の長寿命化
- 「子どもの居場所」づくりの推進
- 若手教員の人材育成
- 小中学校のICT環境整備
- 「コミュニティ・スクール」導入の推進
- 障がい者スポーツの普及促進
など

みんなで協力してできること

- 子育て家庭をみんなで応援
- 子どもの成長を地域で見守り
- 学校行事やPTA活動に参加
- 図書館などを積極的に活用
- 国体にボランティアや観客として参加
など



政策 2 健康・福祉(にこやか) ～いつも、だれもがいきいきと暮らせるまちづくり～

生活習慣や社会環境の改善、医療と介護の連携、「地域」の力の活用等を通じて、誰もが心豊かな生活を送れる社会の実現を目指します。

政策 2 にこやか ～いつも、だれもがいきいきと暮らせるまちづくり～

- 8 共に助け合う地域づくりの推進
- 9 健康づくりの推進と地域医療の充実
- 10 高齢者福祉の充実
- 11 障がい者福祉の充実
- 12 社会保障の確保

主な取り組み

- 定期的な健診・検診の受診促進
- 感染症等の予防接種の促進
- 地域包括ケアシステムの推進
- 障がい児者基幹相談支援センターの運営
- 生活困窮者への支援体制強化
など

みんなで協力してできること

- 自治会や老人クラブの活動に参加
- 若者が参加しやすい環境づくり
- 定期的に健診・検診を受診
- 健康教室等にも参加
- 隣近所にあいさつ・声掛け・見守り
など





政策3 産業・文化(にぎやか) ～地域の活力あふれ、にぎわいのあるまちづくり～

誰もが安心して働き続けられる環境づくりや、最新技術の活用による労働生産性の向上、スマート農林業の取組を推進します。また、自然や文化といった豊かな地域資源を積極的に活用するとともに、新たなまちの魅力の創出にも努め、にぎわいのあるまちづくりに取り組みます。

政策3 にぎやか ～地域の活力あふれ、にぎわいのあるまちづくり～

13 雇用の創出と働く環境づくり

14 地域と連携した商工業の振興

15 資源を活かした「選ばれるまち」の創造

16 戦略的農業の推進

17 持続可能な森林経営と木材の循環利用

主な取り組み

- 鹿沼インター産業団地の早期整備
- 花木センターの道の駅への推進
- 水源地域振興拠点施設の整備
- 多種多様な農畜産物の生産振興
- 認証材の推奨など、持続可能な森林経営の支援など

みんなで協力してできること

- 企業の社会貢献活動に感謝
- 地元のお店で地元産品をお買い物
- 地産地消を実践
- 地元産材で家づくりなど
- 子育てしやすい職場づくり
- 地元産品の6次化に挑戦
- 貸農園で農家体験
- 里山で森林浴やハイキング



政策4 自然環境(きよらか) ～豊かな自然に寄り添い共生するまちづくり～

循環資源型・低炭素社会の実現を目指し、省資源・地球温暖化防止を推進するとともに、市民の皆様と一緒に自然環境の保全や地域の環境美化に取り組み、自然との調和のとれたまちづくりを進めます。

政策4 きよらか ～豊かな自然に寄り添い共生するまちづくり～

18 環境に優しい持続可能なまちづくり

19 3Rの推進と循環型社会の形成

主な取り組み

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組
- エコライフフェアなど環境啓発事業の展開
- 安定した一般廃棄物の処理
- ごみ減量と適切な分別の啓発
- 一般廃棄物処理施設の長寿命化など

みんなで協力してできること

- 節電・省エネの徹底
- フードロスの削減
- 地域の清掃活動や環境美化活動に参加など
- 太陽光発電システムを導入
- ごみの分別や3Rの徹底





政策5 都市基盤・危機管理(しなやか) ~弾力ある安全安心の強いまちづくり~

災害から市民の生命と財産を守るため、平時の備えを強化し、強くしなやかな都市基盤・地域・経済社会を構築します。また、本市の地域特性を生かしたコンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりを進めます。

政策5 しなやか ~弾力ある安全安心の強いまちづくり~

- 20 持続可能で暮らしやすい都市空間の形成
- 21 安全安心な水道水の供給
- 22 良質で安全安心な水循環施設の整備
- 23 道路・河川・公園などの都市基盤の充実
- 24 様々な危機に対し生命と財産を守る防災力の強化
- 25 強固で持続可能な消防体制の確保
- 26 安心して暮らすことができる生活環境づくり

主な取り組み

- 都市機能の集積と交通ネットワークの最適化の推進
- JR鹿沼駅東側の整備
- 安定した上水の供給と下水処理
- 総合的な治水対策の推進
- 消防団の担い手確保など

みんなで協力してできること

- 公共交通の積極的な利用
- 節水の徹底
- 道路や公園、河川の清掃活動に参加
- 災害に備え食料を備蓄
- 防災情報アプリを登録
- 地域の防災訓練に参加
- 交通ルールの順守など



政策6 市民協働(なごやかさ) ~多様性を支える協働のまちづくり~

地域コミュニティ組織や企業等、様々な主体と協力して地域課題の解決に取り組みます。地域全体での協働・共創によるまちづくりを進め、全世代・全市民が活躍できる社会を目指します。

政策6 なごやかさ ~多様性を支える協働のまちづくり~

- 27 彩り豊かな協働による市民が主役のまちづくり
- 28 多様性を認め合い誰もが個性や能力を発揮できる社会づくり

主な取り組み

- 市民が主役の地域づくりの支援
- パートナーシップ制度の適切な運用
- 平和行政の推進
- 消防団の担い手確保など

みんなで協力してできること

- 自治会活動や地域の行事に参加
- 一人ひとりの多様性を尊重
- 人権啓発イベントや学習会に参加
- 戦争の悲惨さを継承など



政策7 行政経営(たくましさ) ~将来を見据えた持続可能なまちづくり~

業務のスリム化やDXを進め、より効率的かつ効果的な行財政運営を推進し、よりたくましく未来に持続する鹿沼市を市民と共に創ります。

政策7 たくましさ ~将来を見据えた持続可能なまちづくり~

- 29 シティプロモーション・移住定住の戦略的推進
- 30 健全な行財政基盤づくり
- 31 行政情報の発信と市民の声の把握の充実
- 32 多様な幸せを実現するためのデジタル化

主な取り組み

- 「いちご市」のブランドイメージの定着化
- 移住定住情報の発信
- 健全で安定的な財政運営
- デジタルを活用した効率的な行政運営など

みんなで協力してできること

- 鹿沼市の魅力をSNSで発信
- 税金の納期を順守
- 世論調査に協力
- 市長や議員との意見交換会などに参加
- マイナンバーカードを取得・活用
- キャッシュレス決済を活用など





3つの重点プロジェクト

総合計画における取り組みを加速させるため、複数の分野の連携が欠かせない横断的な取り組みを「重点プロジェクト」としました。

プロジェクト1

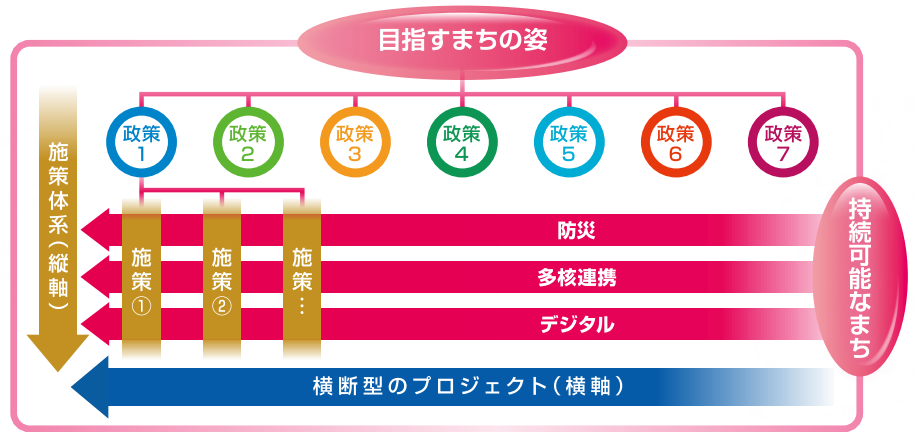
▶ 防災力強化プロジェクト

プロジェクト2

▶ 上手に縮む多核連携型拠点形成プロジェクト

プロジェクト3

▶ Society5.0の実現に向けたデジタル化プロジェクト



1 防災力強化プロジェクト

目指す姿

- 福祉系施策や都市基盤系施策と連携し、災害に強い都市基盤を整備するほか、高齢者や障がい者といった災害弱者も含め、市民との協働により、誰一人取り残さない防災体制の構築が進んでいます。

現状と課題

- 災害時に避難が必要となった場合、高齢者や障がい者など弱い立場にある人たちは、特に命の危険にさらされることになります。
→**テーマ1** 地域の共助と連携し、誰一人取り残さない防災体制の推進
- 近年の災害の頻発化・激甚化に対応するため、都市基盤の防災・減災機能の強化が必要です。
→**テーマ2** 災害に強い都市基盤の整備

2 上手に縮む多核連携型拠点形成プロジェクト

目指す姿

- 人口減少などに伴い都市のスポンジ化や民間活動の縮小、公共交通の縮小など「負のスパイラル」が起こるリスクは高まっていますが、そのような中でも、将来世代にツケを残さない「上手に縮む」まちづくりが進んでいます。

現状と課題

- 空家、空き地などの低未利用地がランダムに孔が空くように進み、都市のスポンジ化が進行しています。
→**テーマ1** 市街地が有する都市機能の持続可能性を高める体制の構築
- 山間部などでは、生活サービスを提供する商店の撤退などにより、集落機能の低下が懸念されます。
→**テーマ2** 集落の持続可能性を高める拠点の形成
- 市域をつなぐネットワーク機能が低下しています。
→**テーマ3** 持続的に市域がつながる体制の構築

3 Society5.0の実現に向けたデジタル化プロジェクト

目指す姿

- 人口減少がますます進み、地域のヒト・モノ・カネが減っていく中であっても、様々な分野のデジタル化が進むことで、市民の暮らしの質が維持され、新しい価値が創出されています。

現状と課題

- 行政分野ではハンコに代表される紙ベースでの事務処理や市民が来庁することを前提とした手続きなどの問題性が指摘されています。
→**テーマ1** 行政分野のデジタル化
- 市民活動や企業活動の分野ではデジタル化が進んでいますが、それを上回る速度で世界・国内のデジタル化が進んでいます。
→**テーマ2** 民間分野のデジタル化



鹿沼市を取り巻く社会潮流 —持続可能なまちづくりのために—

人口減少や少子高齢化の進展、地球温暖化などに伴う自然災害の激甚化・頻発化、産業構造の変化、さらにコロナ禍による生活様式の変化など、本市を取り巻く状況は大変厳しいものとなっています。

また、地域経済や地域活力の低下がより実感を伴ったものとなる中、多様な主体(行政・コミュニティ組織・企業等)がまちづくりに関わるための仕組みづくりや支援を行い、市民サービスの維持・向上に取り組んでいきます。



SDGsの取り組み

これからのまちづくりは、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を取り入れ、本市を取り巻く社会情勢の変化などを予測し、鹿沼市のあるべき将来像から逆算して「いま何をすべきか」を考えるという視点でまちづくりを進めていく必要があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



市民がみんなで協力してできること

「持続可能なまちづくり」には、市民の皆さんの協力が不可欠です。

本市を取り巻く環境が厳しさを増す中、住民ニーズや地域課題はより複雑かつ多様になり、行政だけですべての市民ニーズや地域課題に対応することは困難です。防災や減災、子育てや教育、高齢者・障がい者などの福祉をはじめ、様々な分野で協働の必要性が高まっており、住民自身が取り組む“自助”、地元住民の相互の協力と支え合いによる“共助”、そしてその土台としての地域コミュニティの重要性が増しています。

そこで、市民、地域コミュニティ、各種団体、学校、企業など、多様な主体とともにまちづくりを進めるために、若者を中心とした市民ワークショップでいただいた意見などをもとに施策ごとに「自分自身や家族と協力してできること(自助)」、「近所の方々、自治会、企業、民間の団体などと協力してできること(共助)」をまとめました。

皆さんも自分で、周りと協力して、できることを考え、実践してください。

「持続可能」で「やさしい」まちづくりには市民の皆さんの協力が欠かせません。
みんなで力を出し合って「持続可能」で「やさしい」まちをつくってきましょう！



発行：鹿沼市総合政策部総合政策課

電話：0289-63-2146

総合計画は市HPに全データを掲載しています。

URL：<https://www.city.kanuma.tochigi.jp/0366/info-0000007879-1.html>

表紙：小村あづさん

(地域おこし協力隊)作

鹿沼のまちで人々が笑顔でいきいきと過ごす姿を表現しています。